



「サル」の楽園へ、秘蔵路線の機械メンテナンス 長野電鉄のUNIMA4コーチ

基本情報:

- ・長電テクニカルサービス(長野電鉄子会社)
- ・設立1997年
- ・主路線:長野駅~湯田中駅
- ・路線延長:33.2km
- ・最高速度:時速90km
- ・一晩当たりの作業距離:300~400メートル
- ・機械名:UNIMA4 (2016年~)
- ・最終電車:長野駅 23:25発
- ・始発電車:長野駅 06:15発

伝統とモダンに囲まれた保守作業

「対称」の国、日本。伝統を重んじながらもモダンを取り入れる姿は、世界でも稀有な存在です。近未来的な巨大都市と古くから伝わる宗教儀式、そして自然との調和、島国の固有な自然もそこに共存しています。長野県にある地獄谷温泉では、野生のサルたちが寒さ厳しい冬を温泉で楽しみます。そんな猿たちを見に世界中から多くの観光客が押し寄せるこの地獄谷温泉へは、長野駅から長野電鉄の運行する列車に乗って向かいます。

この軌道の保守管理機械のメンテナンスを担当しているのがヨウタさんです。今回は、彼のお気に入りの機械UNIMA4と共に彼の仕事とその思いを取材してきました。



特急「スノーモンキー」



人気観光地 地獄谷温泉

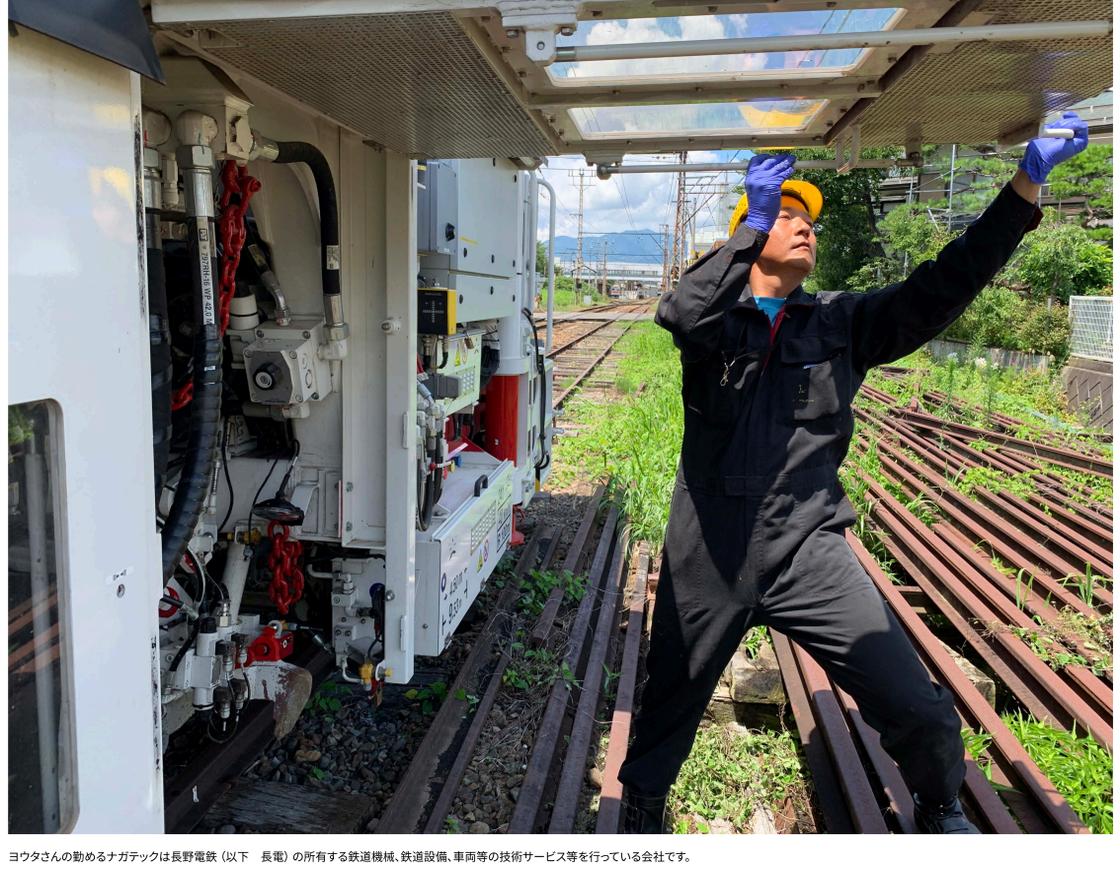
長野-湯田中(長野線)のUNIMA4



ヨウタさんは長野電鉄所有のさまざまな機械メンテナンスを担っています。中でも小型マルチUNIMA4に関して並々ならぬ情熱を持っているのが伝わってきました。

夜間作業が予定される日には必ずマルチを丹念にチェックします。故障やトラブルにつながるものはないか、隠れたリスクを一つずつ調べ、作業可否を判断します。UNIMA4は長野電鉄特製のサイラー&トイラー社製マルチ1号機であり、その活躍を期待されています。

「以前は小型突き込み装置を使用していました。大切に整備し、40年以上用いてきました。UNIMA4は弊社にとってようやく入った待望の保線機械で、スポーツオールドも製造したほどです。私にとっては可愛い子供のようなものです」



ヨウタさんの勤めるナガテックは長野電鉄(以下 長電)の所有する鉄道機械、鉄道設備、車両等の技術サービス等を行っている会社です。

長野電鉄のプロフェッショナル機械コーチ

「保線機械はとても魅力的な分野です。大抵の人は大きな機械を自由自在に操作したいと思うかもしれませんが、私は全く興味がありません。変ですかね。自分でメンテナンスした機械が問題無く動いてくれることの方が私にとっては大事なのです。」

とヨウタさんはハニカミながら話してくれました。

実践を重視する彼は、鉄道業界に最適な人材のようです。彼らは機械の技術面に大きな関心を持ち、様々な経験を実践積み重ねてきました。その姿勢はさながら有能なスポーツコーチのようで、試合までにボクサーを完璧に仕上げリングに立たせるが如く機械を調整します。スポットライトを浴びる事はなく、常にリング外で選手を見守るこの有能なコーチは、試合開始のゴングを鳴らす(保守機械の作業を開始)ために必要不可欠な存在です。



UNIMA4が日本に到着する前から資料を読み研究し、詳細を確認していきました。機械の操作? 興味ありません-ヨウタさん

人々を目的地へ運ぶ



機械を直接操作しなくても、ヨウタさんの仕事は山ほどあり、常にチャレンジの連続です。擦り減り摩耗したパーツを取り外し、新たなパーツを取り付けた瞬間に幸せを感じると言います。時にはパーツ交換が難しい事もありますが、困難であればあるほどやる気を感じるようです。常に挑戦していきたい性分なのかもしれません。

「ナガテックでは毎日、心から仕事を楽しむことができます。安全への高い意識、技術的知識と経験、そして鉄道インフラの保守サービス。その全てに誇りを持ち仕事に取り組んでいます。私たちの仕事は鉄道交通を確かなものにするだけでなく、人々を目的地に運ぶことだと思っています。そう考えると、私の仕事も地獄谷温泉を訪れる観光客につながる仕事なのです」

先輩の教え

長電入社から六年、彼は機械保守を管轄する部署で実践的な経験を積み上げてきました。「この六年間が人生で最も勉強した時間でした。良い先輩のおかげで日々発見の連続でした。先輩方は引退をされていきましたが、彼らの技術知識と経験は私の中にとっかかりと受け継がれています。目を輝かせながらヨウタさんはインタビューにそう答えてくれました。」

「私も私たちの知識と能力をさらに深めていけるように取り組んでいます。それは単にプロフェッショナルとしての意味合いやキャリアだけではなく、人としての側面も含みます。」



「今年の夏は雑草が大きな問題でした。機械下の雑草が機械にダメージを与える恐れがありました。雑草を『小さく危険なモンスター』と名付ける機械コーチはあらゆるリスクを見逃しません。」



豆知識? 小さな違いでも大きな効果。日本ではガルトの組みを見つけてやすくなるため「マーク」を用いるのが一般的ですが、私は視認性を高めるために「Tマーク」を使用しています。

「修理一つとっても、プロの仕事は違います。一見するとその違いは分かりませんが、その効果はすぐ明らかに分かります」 -ヨウタさん

修理へのこだわり

進化を続ける最新機械の恩恵により、ユーザーは直感的に操作しやすくなってきました。保守エキスパートであるヨウタさんは、そこに影の部分があることを指摘しています。

「昔の機械式だけの機械に比べると、最新機械はメンテナンスできる範囲が限られています。故障した装置は修理するのではなく、アセンブリ一式交換することが増えてきました。これまで培ってきた専門知識が将来的に不要なものになるかもしれません。だからこそ修理した部位が長く使えるよう、修理にこだわります。修理一つとっても高品質な修理をしたいのです。一見すると修理の質は分かりませんが、どれもすぐには問題なく機能します。プロとして、そんなことが無いよう細心の注意を払っています」



須坂駅前にて、2017年に神道式の発進式が催されました。それ以降、人命にかかわる重大な事象は発生していません。ヨウタさんも発進式からずっと機械に携わっています。



23:50、UNIMA4が夜間作業に出発した後、ヨウタさんは就寝します。

家族と長電-過去からのつながり

地獄谷温泉の猿たちは昔と比べてだいぶ有名になりました。今では外国からの観光客もひっきりなしにやってきます。昔はそんな風になるとは考えられなかったです。そう語るヨウタさん。話を聞いていると実は親の代から、長電と深くつながっていることに話してくれました。

「私の父は長電バスの運転手として長年働いてきました。幼い私にとって大きなバスを運転する父はヒーローで、ずっと憧れていました。母は長電のバスガイドとして働いていました。両親が共に長電で仕事をしていたこともあり、生まれたときから長電と強い縁を感じていました」

ヨウタさんの父はすでに退職し、バスの運転手をしては父親に憧れていた当時のヨウタさん自身、2児の父になりました。世界は大きく変わりました。変化の大きい時代の中で、今でも脈々と絶えることなく受け継がれる長電で働く人々の仕事に対する情熱と誇りを実感した取材でした。

